

1. 活動報告（事務局 記）

—10月10日（土） 薄曇りの中、稲作体験の“稲刈り”を行いました。参加者は里山ビオトープ二俣瀬をつくる会会員24名、親子自然観察隊17名二俣瀬子ども会19名、応援学生2名、宇部市関係者2名、総勢64名、昨年と同じでした。朝露に濡れる中、“稲刈”を始めました。15分間の休憩を挟み、予定通り11時には刈取り、はぜ懸けも終わり、汁粉にて刈みてをにぎやかに行いました。皆様、ご苦労様でした。

—10月24日（土）作業内容

① 脱穀（はぜ懸けをしてあった稲を外し、コンバインで脱穀しました）

※ 借りた脱穀機の藁カッターの調子が悪く2/3は切らずに保管しました。

② 駐車場法面の草刈り

※ 特に今年度一度も草刈りを行っていない畦畔傾斜部もきれいに刈りました。

③ 修復活動（止水池とため池の水位調整パイプを修復しました）

本日は、会員14名が参加しました。皆さん、ご苦労様でした。

④ 午後夕方には臼挽（脱穀したモミから玄米にする事）も行い4俵（240kg）のもち米玄米の収穫を確認しました。 合わせ切れなかったイネ藁を整理保存しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—11月1日（日）維持活動、草刈り

—11月28日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）

※稲作体験で稲刈りの後の農作業を、それも昔ながらの機械を使わない手作業の体験もできます。ほかしめ縄など藁を使った工作教室もあります。

3. 来訪者の声

—27. 9. 9 赴任して3ヶ月になりますが、このような素晴らしい場所があることを全く知りませんでした。自然に恵まれ、人に恵まれ、大変素晴らしいところですね。

二俣瀬大好きです。 Y. O.

4. 会員の声【 稲作体験—稲刈りと脱穀 】 (原田満洲夫 記)

① 10月10日餅米の穂が稔り絶好の稲刈り日和、総勢65名の稲刈りが行われた。

二俣瀬子ども会・親子自然観察隊の体験応援のもと、手に鋸かまを握って引いたり押したり、本来は“サッと引く”だけで稲が切れるのであるが、持っている鎌がノコだけ引いたり押したりするのであろう。見本に教えることが出来たので刈ってみせると子どもたちもその母親もが“すごい！”と言ってくれる。

我々昭和10年代生まれの人間は、秋の実りの時期になると毎日稲刈りとハゼかけがあり一日で一反（ビオトープの田圃の約2倍）をするのに兄弟3～4人父母の大人数で朝早くから月が出るまでやってきたものである。

稲を刈る事が出来るまでの苦労も、ここに参加した子供たちもその父母もあまり知らない。事有る毎に田植のまでの準備作業や手作業による草取り・虫取り・畔の草刈り・土用干し等の水の管理を説明するが、あまり興味を示してくれない。

農業に関わる考え方を少しでも知っていただきたいと、「ビオトープをつくる会」が今後も本来の農業でなく、イベントとして継続しなければならないのであろう。

今年もあと脱穀・精米を済ませ収穫祭でこの農業体験も終わる。

② 10月24日 乾燥具合も適し13名の参加で脱穀を経験して頂きました。昨年までは二俣瀬の会員と応援可能だった会員数名で行っていましたが、天気も活動日まで良いことが予報で分かりましたし、会員のなかでまだ脱穀（稲こぎ）の経験のない方があるのでチャンスと思い機械を使った活動の経験をしていただきました。

脱穀が終われば過っては“こぎみて”でいっぱい飲んで祝ったものです。

今後は親子自然観察隊の皆様や子供会の皆様の体験も考えていきたいと思います。



5. 親子自然観察隊 「 稲刈りに想う 」(管 哲郎 記)

朝の間は少し曇り空でしたが、しだいに青空が広がり絶好の稲刈り日和となりました。お天気が良くても暑くなく、作業するには最適の気温でした。おかげで稲刈り作業もはかどり、余裕をもって無事終了いたしました。今年も稲刈り前に雨もなく、足元もよかったので大変作業しやすく、きれいに片付いたようです。

稲刈りが終わると、“ひぎ癒し”という風習があり、稲刈りを行った皆さんにごちそう（昼食～おにぎり、豚汁）がふるまわれました。準備を滞りなく行った会員のみなさん、隊員や子供会のご父兄の方々、本当にご苦勞様でした。おかげさまで、とても楽しい稲刈り行事ができましたし、子供たちも嬉しく終了したことでしょう。

今頃は特に街中では親子や仲間ですら食事を作り皆で食べるような行事がなかなかありません、私たちの子供のころはお盆、正月、お祭りや冠婚葬祭に、地区や部落総出で炊き出しをし、皆で祝い楽しんできました。親子仲良く、友達親戚仲良く、したがって“いじめ”などということは特定の子供を除きありませんでした。近隣とのお付き合いは煩わしいこともありますが、しかし、健全な社会を形成するためには必要なことかもしれません。

街中では自治会組織がありますが、アパートができマンションが建設され、自治会組織が“よそもの”により機能しにくくなっています。外国人の問題もあり、難しい時代です。

ビオトープの行事に参加し、皆で苦勞しながら行事を進めてゆくたびに、小さな組織ですが素晴らしいことをやっているんだと痛感しています。これからも体の続く限りお手伝いさせていただくつもりです、皆様のご協力、応援をよろしく願いいたします。



稲を刈っていきます



刈った稲をハゼ掛けに



食事の準備



ハゼ掛けの前で全員でバンザイ

親子自然観察隊の親子の感想

★月本直秀

稲刈りは、初めてでかまを使うのも初めてだったけど上手に出来たので楽しかったです。また、やりたいです。

★月本（母）

初めて、釜でご飯を炊きましたが、火加減が難しいですね。災害のときなどの参考になりました。稲刈りは、刈った稲を束ねる作業をお手伝いしましたが、知らないことばかりですね。経験することは大人になっても大切だなあと思いました。豚汁とおむすびそれからおつけもの美味しかったです。ごちそうさまでした。

★小川勝登

稲刈りは最初はちょっと難しかったけど、段々慣れてくると早く刈れるようになりました。汗が出て疲れたけど楽しかったです。おむすび、豚汁がおいしかったです。

★小川（親）

慣れないながらも、初めての稲刈りを楽しんでおりました。無心で作業して、全ての稲を刈り終えたときは爽快な気持ちになりました。私自身は、少ししか刈ってないんですが…、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

※以下明朝体に変更しました。

★下川拓実

刈るのは楽しかったけど、束ねるのが大変だった。豚汁がとてもおいしかったです。

★下川航平

稲を刈るのが楽しかったです。

★永富花音

稲刈りは稲が仲々切れませんでした。ハゼかけは稲が重くて、広げたり竹の棒に掛けるのが難しかったです。でもまたやりたいです。

★永富利津子（母）

稲刈りなどの体験を通して、農業の苦労や、収穫・働く喜びを感じてくれたらと思います。

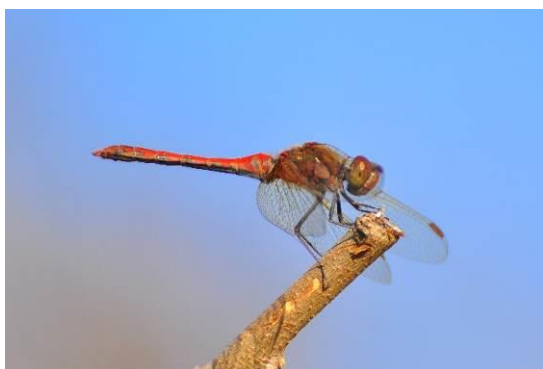
6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(34) タイリクアカネ *Sympetrum imitoides*

トンボ科 Libellulidae

大陸よりの飛来種ですが、日本国内でも海岸沿いの水たまりやプールなどで幼虫は生き抜いて繁殖している姿を見かけるようになりました。6月～12月ごろまで見られ7月～10月に多く目撃されます。筆者も未熟な個体を宇部市内の水田で6月に目撃しています。近くの池で羽化したものと思われます。県内で「定着」しているのかも知れません。

以前は海岸沿いのある場所でしか見られませんでした。近頃では海沿いの公園や林縁部、ため池などで多くみられるようになりました。アキアカネによく似ていますが、アキアカネは少なくなり、本種が多くなっています。宇部市の海沿いでは多くみられますので、注意して探してみてもいいでしょう。



タイリクアカネ ♂



タイリクアカネ ♀



タイリクアカネ ♂未熟



タイリクアカネ ♂半成熟

7. 会よりの連絡事項

1. 会計の今後の扱いが事務局に一任されましたので、対応変更を事務局で協議して、次のように決めました。

ビオトープの活動で必要な物品は事務局に相談または会長に報告して購入し、その金額を事務局に前もって報告頂ければ先にお金を手配して活動日にお渡しするか、支払い済においては次回の活動日にはお手渡しできるようにしたいと思います。

8. 編集後記

今年も稲刈りを終わることが出来、収穫もまずまずでほっとしています。子供たちには稲作体験を通して農業の大変さや大切さを実感してもらえたかなと思いますが、TPPを含め農業・林業などは大変な時期を迎えています。里山は農業・林業があって成り立っていますので、自然を保全していく私たちの活動もわずかではありますが、少しは寄与しているかなと自負しています。やはり自然があって私たちが生きていけると感じています。

(原谷 一誠 記)